

このひと

日本分析化学会会長に就任される

澤田 嗣 郎 氏

(Tsuguo SAWADA
東京農工大学化学システム工学学科教授)

1965年3月東京大学工学部工業化学科卒業，1970年3月東京大学大学院工学系研究科工業化学専攻博士課程修了（工学博士），同年東京大学工学部助手。1979～80年テキサス大学博士研究員。1981年7月東京大学工学部講師，1986年4月助教授，1988年7月東京大学工学部教授。1998年4月，東京大学大学院新領域創成科学研究科の設立に伴い同研究科教授。2003年3月東京大学を定年退官，同年4月東京農工大学工学部教授。同年東京大学名誉教授。現在に至る。1990年市村学術賞。1994年日本分析化学会学会賞。2000年島津賞。2003年日本分光学会賞学術賞。日本分光学会会長，日本分析化学会副会長などを歴任。

澤田嗣郎先生と言えば，光熱変換分光法の我が国を代表する研究者として広く世界に知られています。まだ光熱変換分光と総称されるずっと前，先生は光を当てると音が出る光音響効果に注目され，この効果を使った光音響分光法とその分析化学への応用の研究を着想され，当時東京大学技官として職場を共にされた織田昌平博士とOda-Sawadaの名コンビで次々に重要な論文を発表されました。そのご研究は光音響分光装置の開発から，湿式分析や免疫分析をはじめ様々な吸光分析法や液体クロマトグラフィーの超高感度検出，また固体試料のイメージング，非破壊分析など，おおよそ考えつく応用のほとんどすべてを初期のうちに網羅されました。その後，光が音に変わる前に経る熱の状態を捉えようとする光熱変換分光分析法にこの方法を一般化され，さらに時間軸の入った分光計測へ展開されたことをきっかけに超高速光熱変換分光法へとどンドンご研究を進められ，その極限として熱になる前のフェムト秒時間領域の分光計測にまで展開され，分析化学のみならず物理化学や固体物理など驚異的といえるほど広い分野へご研究を広げられました。レーザーブレイクダウン分光法や準弾性レーザー散乱法まで手がけられ，液液界面測定などレーザーを用いた分光分析や分光化学計測の壮大な殿堂を築かれました。

澤田先生のご業績によく現れていますが，先生のご信条は「人と同じことはやらない」ことで，独創性を常に尊ばれています。そのご信条は，そもそもレーザーが市販になったばかりの頃に光を使った分析化学にレーザー光を持ち込むことを着想され，それもほとんど誰も手をつけていなかった液体の光音響分析法に適用しようという発想に代表されましょう。まさに，レーザー分光分析の扉を開かれたパイオニアのお一人です。今でこそレーザーは当たり前の光源でも，その当時は高価で扱いにくい光源を分析化学になんてとよく言われたそうです。多くの人を取り組む大問題の解決よりは，誰も手をつけていない領域を率先して開墾することに常に熱意をもっておられます。こ



のことはご研究だけでなく大学の運営にも発揮され，非常に困難だった工学部化学系の改組や新しい部局である新領域創成科学研究科の設立に多大な貢献をされました。今では化学系学科は工学部の中でも人気学科の筆頭グループで，ここでも先生のご信条と先見性が大きな成果となって残されています。

しかし，人と同じことをしないで一流のお仕事をされるには並大抵の精神力では務まりますまい。先生は穏和で温厚なお人柄と同時に大変な負けず嫌いで，何でもとことんやり抜かれます。超高感度なら単一分子まで，超高速ならフェムト秒まで，ご研究であれば極限を目指されそれを完遂されます。遊びであっても負けません。釣りなど数あるご趣味の中でも，特にゴルフとボーリングは誰にも負けない腕前でいらっしゃいます。ところが，ある年，学科の懇親会で企画されたボーリング大会で，それほどボーリングが趣味だとは豪語されていなかった北澤宏一先生（現 JST 理事）になんと一ピンの差で優勝争いをおこなわれ，その結果，その場で翌年の懇親会もボーリング大会をすることになりました。勝つまでやる！ それ以来，応用化学科はボーリング大会が盛んになり，教職員皆さんで楽しむ伝統ができました。

そうした先生の御活躍や気質に，いつの時代でも澤田先生を慕う若手の研究者が多くいます。先生も若手の熱意によく応えてくださいます。我々が若手だった頃，先生は「^{いわし}鯛の大群，マグロに食われる」の名言をもって，研究や学会の運営のすべてに渡る基本的な姿勢を説かれました。澤田先生のお人柄とご信条がよく表れ，しかも多くを語る必要のないこの名言は，本当の名言として多くの人達に刻み込まれ口にしります。

回遊魚のマグロは止まると死んでしまうので，眠っているときでも泳いでなければなりません。本会の会長として，またその後も，筆頭大マグロとして常に世界の先頭を切って泳ぎ進むべき方向を示してくださいと，多くの人たちとともにご期待申し上げます。

〔東京大学大学院工学系研究科 北森武彦〕